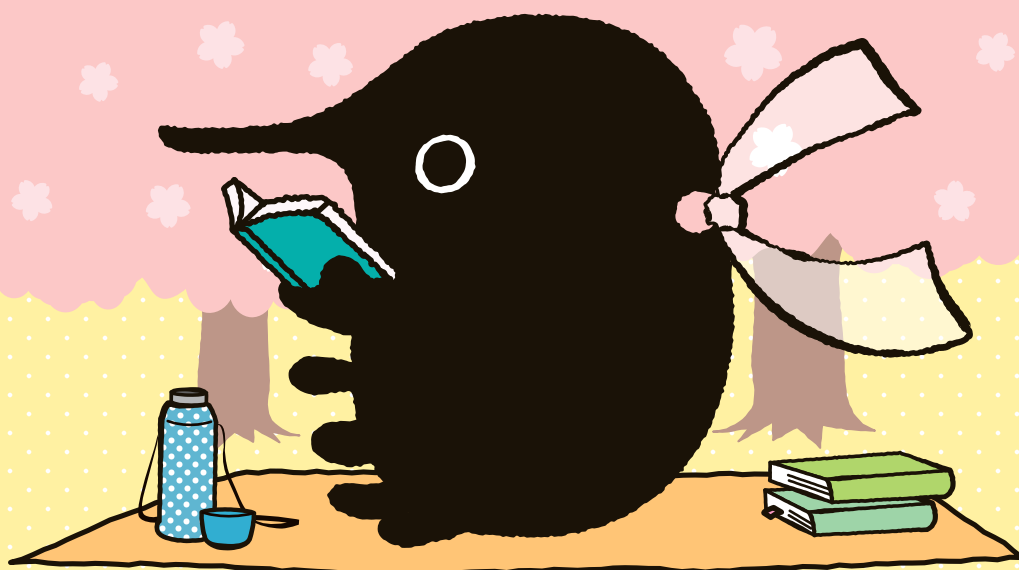


# 図書館だより

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library



ほんのむし

1

vol.40

北海学園大学附属図書館報

第40巻1号(通巻218号)

2018-4-1

特集①

地域課題を地図で見える化する  
—地理情報システム(GIS)活用のすすめ

経済学部 教授 水野谷 武志

特集②

キューバの本屋で立ち読み

経済学部 教授 平野 研

おすすめ図書

経営学部 教授 田村 卓哉

ようこそ

北海学園大学附属図書館へ

編集後記／  
図書館からのお知らせ

# 地域課題を

# 地図で見える化する

# 地理情報システム(GIS)活用のすすめ

経済学部教授  
水野谷 武志 みずのや たけし



## 様

様々なデータを地図化するのとていろいろなことが見えてきます。例えば札幌市の高齢者問題を理解する第一歩として、札幌市のどのエリアで高齢者率が高いかを知り、他のエリアに比べてそのエリアで高齢者率がどうして高くなっているのか調べる必要がありますが、そこで威力を発揮するのが地図です。札幌市のエリア地図と高齢者率という統計データを組み合わせると地図上に色分けすれば一目で高齢者の多いエリアを把握できたり、気がつかなかった新たな発見がもたらされるかもしれません。このように具体的なテーマ(主題)を持って作成する地図のことを主題図といいます。

主題図を作成するにはコンピュータ上で様々な地図とデータを重ね合わせて分析できるしくみがあると便利です。そのしくみを地理情報システム (Geographical Information System: GIS) といいますが、GIS機能を持つソフトウェアが近年急速に発達し、また使いやすくなってきました。GISソフトウェアの中でも最も定評のあるESRI社のArcGISが本学のコンピュータ実習室には導入されており、経済学部と人文学部では「GIS論」という実習型講義を展開しています。したがって、本学図書館にはGIS関係の解説書や参考書が充実しています。一部を紹介すると...

### GIS関係の解説書や参考書(一部)

- 若林芳樹ほか編  
『参加型GISの理論と応用: みんなで作り・使う地理空間情報』2017 古今書院
- 橋本雄一編  
『GISと地理空間情報: ArcGIS 10.3.1とダウンロードデータの活用』2016 古今書院
- 河端瑞貴著  
『経済・政策分析のためのGIS入門: ArcGIS 10.2&10.3対応』2015 古今書院
- 山本佳世子著  
『情報共有・地域活動支援のためのソーシャルメディアGIS』2015 古今書院
- 島崎彦人ほか著  
『GISを使った主題図作成講座: 地域情報をまとめる・伝える』2015 古今書院
- 高阪宏行著  
『ジオビジネス: GISによる小売店の立地評価と集客予測』2014 古今書院
- 森泰三著  
『GISで楽しい地理授業: 概念を理解する実習から課題研究ポスターまで』2014 古今書院
- ESRIジャパン株式会社編  
『ArcGIS for desktop 逆引きガイド: 10.1&10.2対応』2013 ESRIジャパン株式会社

筆者はこの講義に関わりながら、専門ゼミナールにおいてArcGISを使って学生と一緒に地域研究を進めています。2017年度には水野谷ゼミ3名(清水巧、本間康資、吉野竜弥)が法政大学市ヶ谷キャンパスで9月に開催された経済統計学会・学生研究報告会で研究成果を発表しました。以下では、この発表で使われた主題図の一部を紹介します。

研究テーマにしたのは、大学周辺地域の人口動向でした。本学は札幌市豊平区旭町に所在していますが、町内会としては旭水町内会に属しています。この旭水町内会地区の人口推移や年齢構成を地図化することによって、この地域の将来について考えることをテーマにしました。

図1は「国勢調査」の結果をもとに、旭水町内会の12区域(国勢調査の調査区をもとにしているため町内会と一致していない部分がある)の人口推移を地図化したものです。各区域にある2つの数字は左側が2005年、右側が2015年の人口数を表し、それを棒グラフ(赤色が2005年、緑色が2015年)でも表現しています。増加している2区域(水車町4丁目と旭町5丁目)を実際に歩いて調べてみると、高層マンション、介護老人保健施設、サ-

ビス付き高齢者向けマンションなどがこの期間に建設されたことがわかりました。

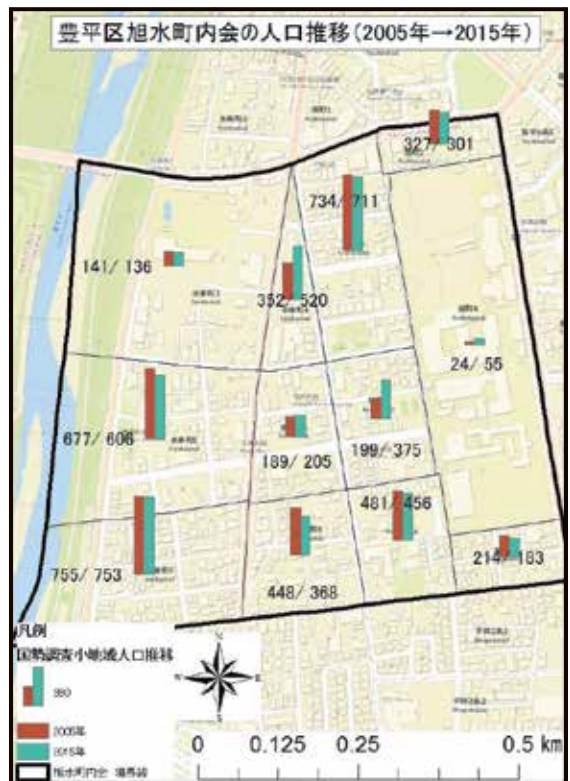
図2は、各区域人口の増減数と年齢構成割合のデータを重ねたものです。年齢構成は円グラフで、内側の円が2005年、外側の円が2015年を表しています。人口増加が大きい青いエリアの2区域に注目してみると、2005年から15年にかけて赤色の割合、つまり65歳以上割合が増えていることがわかります。先に述べたマンションや施設の建設によって人口が増加したものの、入居者の多くが高齢者であったことが予想できます。

主題図を作ることによって、旭水町内会の人口状況は各区域によって違いがあり、人口が増加している区域では新しいマンションや施設が建設されたものの、高齢者割合も増加していることが見えてきました。このように、地域の人口動向を見える化することによって地域の課題や将来の姿を具体的に考えることができる点で、GISの活用はとても役立ちます。掲載した2つの主題図はほんの一例に過ぎません。GISを大いに活用して、皆さんも関心のあるテーマでオリジナルの主題図を作ってみませんか！

図2



図1





# キューバの本屋で立ち読み

経済学部教授 平野 研



2

017年8月から1年間、在外研修としてキューバのハバナ大学経済研究所で研究をするまたとない機会を得ることができました。文献やデータ収集だけでなく、生活を通じてキューバ社会を感じられる貴重な経験でした。例えば、「本を買いにいく」だけでなく「本を買いにいく」だけでなく「本を買いにいく」

「本を買いにいく」だけでなく「本を買いにいく」だけでなく「本を買いにいく」



ハバナ大学

初めてキューバの本屋で本を購入した時のことは今でも忘れられません。本屋は基本的に国営で、地域の文化的発信地となっています。キューバ人作家の小説や雑誌、児童書、専門書などが整然と並んでおり、お客さんも静かに本を手に取り、流れる雰囲気は世界共通の「本屋」です。ある日のこと、子どもへのお土産として絵本を両手いっぱいにかかえて会計したときのことです。レジ係の店員から「400ペソです」と言われました。1ペソ＝1ドル＝120円

と計算した私は「48000円！買い過ぎた！」と慌てつつも、財布とは別に封筒に入れてあった家賃分を出しました。



本屋の前

「今月の家賃をどうしよう」と暗い気分になっている私に対してレジ係は、店内に響き渡る大声で笑いました。

「チップにしちゃ多過ぎるね！」

実はキューバでは「二重通貨制度が採用されています。通常、外国人が手にする通貨は、外国通貨と交換できる兌換ペソ(CUC通称クック)ですが、キューバ国民が使用するのは国内ペソ(CUP通称ペソ)です。本屋は国民のためのものですから、CUP表示です。お分かりの通り、先ほどの買い物400ペソはCUCではなく400CUPでした。1CUC＝24CUPですので、約20000円となります。大体の目安として、写真集などの外国人観光客向けの書籍や専門書は15000円程ですが、絵本や料理本などの

キューバ人向けの書籍は5000円程です。公務員(国民全体の75%)1カ月の手取り所得がおよそ約40000円ですので、安い本は国民にとって身近な存在です。おかげで私も無事に家賃を払うことができました。

キューバは1959年の革命以来、国民の生活を重視した政策をとって来ました。全ての国民に、生活を支える配給や、無償で高水準な医療サービス、教育サービスを提供するシステムは、「民族主義」「平等主義」とも呼ばれます。国民重視のキューバの政策は、他の社会主義国家と異なり、独自の社会主義体制を創り出してきました。社会主義に関しては一般的に、言論統制などのマインスイメージが強いと思います。キューバでも、



ビーチに立つサンテリア(キューバの宗教)の女性

ソ連との関係が強かった70年代に、政策への批判を含んだ文学賞受賞の小説が発売禁止になったことがありました。そ

れに対して作家の団体や市民団体の反発があり、発売禁止が解かれました。言論の自由に対して国民の意識は高いと言えます。そのような意識の高さを感じられたのが、毎年開催されるキューバ国際ブックフェアでした。

首都ハバナの旧市街にあるモロ要塞(16世紀スペイン植民地期の要塞、世界遺産)で1週間かけて開催されるこのイベントは、食べ物の出店や移動遊園地などもあり、多くのキューバ人が楽しみにしています。キューバの出版物だけでなく、海外の書籍も多く販売され、さらに子ども向けのコミックやキャラクターグッズなども購入できます。このイベントに合わせて、ハバナ市内の文化施設では様々な講演会が開かれます。話題となった書籍の著者の講演会やシンポジウムがあり、パンフレットを片手に市民が気軽に参加していました。



ハバナ大学図書館

私が参加した米国との国交回復に関するシンポジウムでは、雑誌編集者やカナダ人の政治研究者などが登壇し、市民も交えて自由な意見交換がなされてい

ました。モロ要塞内の石造りの会場では人が入りきれず、私も階段に座って話を聞きました。別の日には、私が住む家の大家さんが例の本屋で講演するということでも出かけていきました。実は大家さん、大学の准教授で中世史を専門としています。門外漢の私には非常に難しい内容でしたが、それでも多くの方が参加していました。

最近のキューバは、観光業を軸に経済成長をしています。海外送金や外国人向けの個人事業を通じて外貨を得られる人と、公務員給料のみの人との間に格差が生じてきています。そこで様々な改革が進められており、その一つとして公務員の副業の許可があります。そこで大家さんは、使用していない家を外国人向けに貸し出す事業を始めました。急激に増加する観光客に対応できるほどホテルが整備されていないキューバでは、1990年代から「カサ・パティキュラル」と呼ばれる民泊制度が普及しています。



クラシックカーのタクシー

装して、食事や洗濯などを提供するこの制度は、10年前までは1泊2000円程で利用できましたが、需要が高まり、現

在では1泊7000円程の高級宿も出てきています。私が住んでいた家は、民泊の許可を取ったばかりで、リフォームする前だったので、格安の1ヶ月54000円(4LDK食事洗濯なし)で借りることができました。大学の給料が約3750円ですから、税金(12000円)を除いても、大家さんとしては大きな収入源です。



自宅の中庭

講演会の後、大家さんと話をしました。キューバでの研究では政府による制約などではなく、職場ではインターネッツを使うこともできるとのことでした。他にも、海外留学に恵まれないことや、研究費の削減、講義の回数の多さなど様々な話を聞かせてくれました。日本の大学とも共通の問題があることを知ると同時に、社会主義でイメージするような言論統制といった規制はないことも感じる事ができました。なかでも特に印象深かったのが、近年の学生の関心が、ビジネスに結びつくような実学に傾き、歴史学のような基礎研究を志す学生が減っているという話で

した。私が所属していたキューバ経済研究所でも短期留学生を受け入れ、スタディツアーをコーディネートし、職員が忙しく働いていました。大家さんは社会的というよりは、職人気質の研究者なので、「民泊の大家という仕事も本来は苦手なんだ」と笑いながら話してくれました。

大学の授業料も無償ですが、最近では高学歴が高所得を約束してくれる訳ではないので、大学へ進まず、高校もドロップアウトする学生も増えてきているそうです。キューバは国民重視の社会を目指してきた一方で、現在は市場メカニズムを導入しつつあり、その影響が徐々に国民生活を変化させている側面を垣間見たような気がします。

このように変わりつつあるキューバですが、その独特な社会は日本でも注目されています。本屋の中南米コーナーでは一番多いのがキューバに関する本ではないかと思っています。昨年10月には、オタギリジョー主演の映画『エルネスト』が公開されました。ちょうど私がキューバにいる時期に撮影が行われていました。日本語の通訳が総動員され、私の友人も大忙しでした。原作は『チェ・ゲバラと共に戦ったある日系二世の生涯』革命に生きた侍(マリー・前村)ウルタードほか著、キノブックス、2017)ですが、他にもチェ・ゲバラに関する本は『チェ・ゲバラの旅、キュー

バ革命、ポリビア』(伊高浩昭著、中央公論新社、2015)など多くあります。キューバ革命だけでなく、キューバ文化に関する本も多くあります。キューバ音楽に関しては、『キューバ音楽増補新版』(八木啓代ほか著、青土社、2009)や『キューバへ行きたい』(板垣真理子著、新潮社、2011)などがあります。映画に関しては、『ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ』や『莓とチョコレート』(『低開発の記憶』などが日本語字幕付きで観ることができます。『映画とネイション』(杉野健太郎編著、ミネルヴァ書房、2010)では革命後キューバの映画の歴史についても書かれています。最近では、お笑いコンビ・オードリーの若林正恭さんが書いたエッセイ『表参道のセレブ犬とカバリーニヤ要塞の野良犬』(KADOKAWA、2017年)も出版されました。

是非、キューバを知って、遊びにいくてください。本の代金を間違えて支払っても陽気に教えてくれるほど、キューバの治安は良いです。本の値段は最後のページの隅に鉛筆で書いてあるので、チェックするのを忘れなく。



キューバライブ



# 附属図書館へ

本館と工学部図書室があり、  
を所蔵しています。  
整備にも力を入れてきました。  
について紹介します。

## 本館 2階



## 本館 4階



8



## 4階 アクティブ・エリア GS

GS-1およびGS-2は2名以上であれば、利用申請をせずに自由に利用できる学習空間です。備え付けのデスクトップパソコンやホワイトボードを使ってグループ学習をしたり、発表物を作成するのに最適な場所です。(※写真は一例です)

## 4階 サポートデスク

サポートデスクではタブレットPCやノートPC、携帯用ホワイトボードなどの機器を貸し出しています。また、AL-1~6までの利用申請や貸切予約申請も受け付けています。

9



4階

## アクティブ・エリア AL

AL-1~6は2名以上の利用で利用申請が必要な学習環境です。プロジェクターやホワイトボードがあるので、プレゼンの予行演習やゼミの発表準備に最適な場所です。貸切予約をすることもできます。(※写真は一例です)

10



11



## 工学部図書室 閲覧席

工学部図書室の閲覧席は静かな環境が保たれているので集中して個人学習ができます。

12



## 工学部図書室 ブラウジング・コーナー

ブラウジング・コーナーには最新の一般誌や専門誌が多数配架されています。ソファが用意されているので座りながらゆったりと雑誌を見ることができます。

13



## 工学部図書室 開架書架

工学部図書室開架書架には工学部の大学院生、学部生が利用するような工学系の図書を中心に配架しています。

ようこそ

# 北海学園大学

北海学園大学附属図書館には  
約90万冊の図書  
また、近年では学習環境の  
そんな図書館の各エリア

1



## 1 階 デジタルサイネージ

デジタルサイネージでは図書館の開館時間や休館情報、利用案内、イベント情報などを配信しています。

2



## 1 階 ラウンジ

ラウンジでは国内外の新聞を読んだり、友達とおしゃべりしながら食事ができます(軽食のみ)。リフレッシュするのに最適な場所です。

3



## 2 階 ブラウジング・コーナー

ブラウジング・コーナーには最新の一般誌や専門誌が配架されています。ソファも用意されているのでゆったり雑誌を見ることができます。

4



## 2 階 開架書架

2階開架書架には経済・金融・法律・社会保障、社会問題関連の図書や統計白書・参考図書などを配架しています。

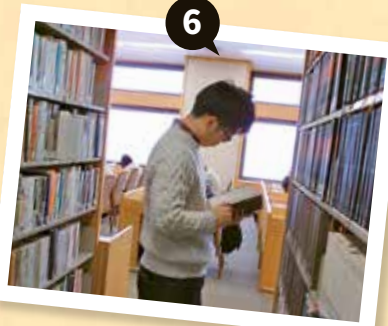
5



## 2 階 ワーク・エリア

2階ワーク・エリアでは図書館の資料や備え付けのホワイトボードを使いながら、個人学習やグループ学習ができます。

6



## 3 階 開架書架

3階開架書架には哲学・宗教・農業・芸術、スポーツ関連、一般小説などの図書や新聞縮刷版などを配架しています。

本館 1 階



本館 3 階



## 3 階 サイレント・エリア

3階サイレント・エリアは音のなる電子機器の使用や私語を禁止しているため、静寂な環境で個人学習することができます。

7







# おすすめ図書

Recommended Books

## 脳のなかの幽霊

V・S・ラマチャンドラン & S・ブレイクスリー 著  
(角川21世紀叢書・1999、角川文庫版あり)

経営学部 教授  
たむらたくや  
田村卓哉

著者は、臨床にも携わる神経科学者。多様な症状を示す患者さんたちを手がかりに、脳と心の関係を探る刺激的な啓蒙書です。幻肢の麻痺や痛み、主観的には物が見えないのに視覚情報をもとにした行動が可能な「盲視」、半側空間無視(視野欠損ではない)、自分の身体の麻痺を認めない病態失認(なんと耳に冷水を注入するだけで一時的に治る!)、自分の肉親だけを偽者扱いするようになるカブグラ妄想等、不思議な症状とその仕組みに迫る探究は、まるでミステリー小説のようです。

ユーモアもたっぷり。ある日、著者のもとへ、かつてDNAの二重らせん構造を解明したF・クリックから相談が。クリック博士が自著(邦題「DNAに魂はあるか」)の草稿を編集者に送ったところ、誰か一般人に読んでもらって意見を聞き、もっと平易にしてはどうかと提案されたらしい。ところが、クリック先生、憤慨しながら、「私は一般人なんて一人も知らない。ラマ、誰か普通の人を知らないか?」

本書も同じ難題に直面しています。つまり、学問的な厳密さを損うことなく、一般読者に自らの専門領域の面白さを理解してもらうこと。著者は、M・ファラデーの『ロウソクの科学』やポール・ド・クライフの『微生物の狩人』等、科学啓蒙書の良き伝統を意識しています。さて、その試みは成功しているでしょうか。

患者さんたちの奇妙な症状の前に、試行錯誤を繰り返しながら、徹底して仮説を推し進め、合理的な理解を目指す著者の態度は、R・P・ファインマン博士がカリフォルニア工科大学の卒業式で強調した「一種の科学的良心」を想起させます(「冗談でしょう、ファインマンさん」下所収の最終章「カーゴ・カルト・サイエンス」参照)。インドで生まれ、イギリスで第一級の教育を受けた著者の「実験的認識論」は、文系理系を問わず、皆さんの知的好奇心を刺激すると思います。(ただし、単行本には、一段落まるごと欠落があるのでご注意を!)

## 編集後記



長い冬が終わり、春の訪れを感じますね。春といえば入学式。これからサークルなどに新入学生が入ってくると思いますが“熱烈歓迎”で迎えましょう!今号も図書館だよりの執筆にあたり、多数の教員の方々にご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

## 図書館からのお知らせ

### 日曜・祝日以外の休館日

入学式:平成30年4月3日(火) 学園創立記念日:平成30年5月16日(水)

皆さまからの、本冊子に対するご感想を下記のアドレス宛にお寄せください。今後の内容充実のために活用させていただきます。  
なお、お寄せいただいたご意見・ご感想についての回答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

▶▶▶ lib@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp